

自然環境保全京都府ネットワーク総会と自然観察会

日時 3月10日(日)

場所 総会：石清水八幡宮清峰殿

自然観察会：男山(石清水八幡宮から裏参道・高良神社) …本会会員講師 5名

天候 雨

総会参加者は30名程度でした。昨年の取り組みとして亀岡のアユモドキ保存地域の見学、レッドデータブックの勉強会(植物)、琵琶湖博物館の視察などが報告されました。今年度も同様の取り組みを進めると共に、京都府として生物の情報収集をするためのシステム構築が予算化され小さいがはじめの一步が歩み出されるようになったという報告がなされました。これに対して今後の博物館作りや情報集積が進む力になるという評価と共に、そこにいるまでの課題が沢山だされ議論となりました。

午後からは、府内の各地を知ろうということで、今回は男山ということになりました。

あいにくの雨模様でしたが意欲的に参加いただきました。この観察会については本会がインストラクターを任せ、下見なども行って実施しました。3班体制と言う事でしたので共通に説明するポイントなどを決め、noi-Kyotoらしい観察会を行おうと準備しました。①男山にある希少種(14)を紹介する。②神社と関わりのある植物を取り上げる。③昆虫と植物の関わりのある植物を使い、生態系としての自然を理解してもらうと共に保全のあり方を学ぶ。④人と関わりを持ってきた植物について実際の使い方を実験的に見てもらう。4つの観点を作りました。

①はコヒロハハナヤスリ、カギカヅラ、キミズを紹介。ウラシマソウやクルマシダ、アキザキヤツシロラン、タシロラン等は生育地の紹介。②はヤマアイと神事との関わり、オガタマノキ、ナギ、御神木のクスノキなどの話。③ではイスノキと虫こぶ、イタビカズラとイタビカズラコバチの関係(スペシャリスト)から生態系のことを考えて貰いました。またナラ枯れと防御。



ナガバヤブソテツの包膜



ヤマアイの雄花



竹門先生もタブノキの葉柄で粘りを確認

④ではタブノキの利用として線香をとり上げ、実際のねり材としての効用を実験的に紹介しました。

3班のうち2つの班が複数で担当し、経験の浅いサブの方にも責任をもって2～3の観察対象を持ってもらい、会として責任を持つと言う事を重きに置きました。(後継者づくりに悩む他の保全団体には参考になったようです。) 各保全団体によっては鳥や昆虫を専門とする方達もおられ、お互い植物と昆虫、鳥と昆虫、植物と鳥というふうに観察の中で意見交流があり、良い刺激になると共に見方の違いもわかり生態学的な観察会がすすめられ学びの多い企画でした。(清水)



イヌガシの花



絡まるカギカズラ



ちぎった葉柄が糸を引くのがわかりますか？



オガタマノキの観察



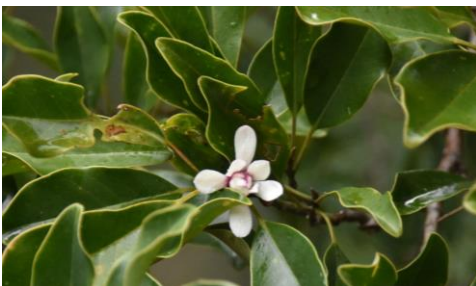
ナギ



フユノハナワラビ



イヌノキの虫こぶ



オガタマノキの花



シロハラ